令和3年度　道路メンテナンス事業
橋梁点検業務委託　阿山・伊賀工区

数　量　計　算　書

数　量　総　括　表

工　　種	種　　別	細　　別	規　　格	単位	数　　量	摘　要
橋梁点検						
	業務計画書			業務	1	
	図面作成			橋	135	
	現地踏査			橋	135	
	橋梁点検			橋	135	
		L=15.0m未満	点検車	橋	6	
		L=15.0m未満	梯子	橋	126	
		L=15.0m以上	点検車	橋	1	
		L=15.0m以上	梯子	橋	2	
	健全度評価			橋	135	
		L=15.0m未満		橋	132	
		L=15.0m以上		橋	3	
	点検調書作成			橋	135	
	打合せ			業務	1	
直接経費						
	ライトバン運転	1500cc5人乗り	N=0.168×(126+2)=21.504	日	22	
	点検車運転		N=0.308×7=2.156	日	3	

点検人員の算定根拠資料（橋長15m未満__梯子）

1橋当たりの点検日数（日／橋）について、以下の算定式により算出する。

D=[{A／（8・Yb）}＋Dm]×係数　　（日／1橋）

A ： 橋梁調査面積（㎡）で、A=L（橋長）×W(全幅員）（地覆外縁間距離）　7.8 × 4.4 ＝ 34.3 ㎡

Yb ： 1編成1時間当たりの基準作業量：調査面積との累乗近似式（㎡／h）

梯子 ： $4.03 \times A^{0.58}$　但しYbの最大を210とする　4.03 × $34.3^{0.58}$ ＝ 31.3 ㎡／h

Dm ： 1橋当たりの移動日数　0.06（日／1橋）

係数 ： 0.470

D ＝ [{ 34.3 ／ (8 × 31.3)} ＋ 0.06] × 0.470 ＝ **0.093** 日／1橋

橋梁点検日数　0.093 日／1橋 × 1 橋 ＝ **0.093** 日

※1橋当りの点検日数の最小値は【梯子】の場合 **0.168** 日であるため **0.168** 日とする。

点検人員の算定根拠資料（橋長15m以上＿梯子）

1橋当たりの点検日数（日／橋）について、以下の算定式により算出する。

D=[{A／（8・Yb）}＋Dm]×係数　　（日／1橋）

A ： 橋梁調査面積（㎡）で、A=L（橋長）×W(全幅員）（地覆外縁間距離）　16.8 × 5.8 ＝ 97.4 ㎡

Yb ： 1編成1時間当たりの基準作業量：調査面積との累乗近似式（㎡／h）

梯子 ： $4.03 \times A^{0.58}$　但しYbの最大を210とする　4.03 × $97.4^{0.58}$ ＝ 57.4 ㎡／h

Dm ： 1橋当たりの移動日数　0.06（日／1橋）

係数 ： 0.470

D ＝ [{ 97.4 ／ (8 × 57.4)} ＋ 0.06] × 0.470 ＝ **0.128** 日／1橋

橋梁点検日数　0.128 日／1橋 × 1 橋 ＝ **0.128** 日

※1橋当りの点検日数の最小値は【梯子】の場合 **0.168** 日であるため **0.168** 日とする。

点検人員の算定根拠資料（橋長15m未満__点検車）

1橋当たりの点検日数（日／橋）について、以下の算定式により算出する。

D=[{A／（8・Yb）}＋Dm]×係数　　（日／1橋）

A ： 橋梁調査面積（㎡）で、A=L（橋長）×W(全幅員）（地覆外縁間距離）　12.3 × 5 ＝ 61.5 ㎡

Yb ： 1編成1時間当たりの基準作業量：調査面積との累乗近似式（㎡／h）

点検車 ： $3.54 \times A^{0.53}$　但しYbの最大を150とする　$3.54 \times 61.5^{0.53}$ ＝ 31.4 ㎡／h

Dm ： 1橋当たりの移動日数　0.06（日／1橋）

係数 ： 0.470

D ＝ [{ 61.5 ／ (8 × 31.4)} ＋ 0.06] × 0.470 ＝ **0.143** 日／1橋

橋梁点検日数　0.143 日／1橋 × 1 橋 ＝ **0.143** 日

※1橋当りの点検日数の最小値は【点検車】の場合 **0.308** 日であるため **0.308** 日とする。

点検人員の算定根拠資料（橋長15m以上＿点検車）

1橋当たりの点検日数（日／橋）について、以下の算定式により算出する。

D=[{A／（8・Yb）}＋Dm]×係数　　（日／1橋）

A ： 橋梁調査面積（㎡）で、A=L（橋長）×W(全幅員）（地覆外縁間距離）　21 × 2.6 ＝ 54.6 ㎡

Yb ： 1編成1時間当たりの基準作業量：調査面積との累乗近似式（㎡／h）

点検車 ： $3.54 \times A^{0.53}$　但しYbの最大を150とする　$3.54 \times 54.6^{0.53}$ ＝ 29.5 ㎡／h

Dm ： 1橋当たりの移動日数　0.06（日／1橋）

係数 ： 0.470

D ＝ [{ 54.6 ／ (8 × 29.5)} ＋ 0.06] × 0.470 ＝ **0.137** 日／1橋

橋梁点検日数　0.137 日／1橋 × 1 橋 ＝ **0.137** 日

※1橋当りの点検日数の最小値は【点検車】の場合 **0.308** 日であるため **0.308** 日とする。

番号	国交省管理用番号	道路橋名	市道名	共架年	橋長（m）	幅員（m）	所在地		点検評価
1	BR0-242161-00600	白藤橋	市道山畑田代線	1973	13	5.2	伊　賀	山畑	点検車
2	BR0-242161-00601	天狗橋	市道山畑田代線	1974	13	10.8	伊　賀	山畑	点検車
3	BR0-242161-00659	御嫁橋	市道中出南出線	1968	10	3.7	伊　賀	下柘植	点検車
4	BR0-242161-00660	広芝橋	市道高山線	1967	13	3.4	伊　賀	下柘植	点検車
5	BR0-242161-00675	大奥橋	市道広芝線	1980	14	3.3	伊　賀	下柘植	点検車
6	BR0-242161-00759	鳥喰橋	市道木方螻鼻線	1971	11	3.6	阿山	中友田	点検車
7	BR0-242161-00023	前川橋	市道倉部柘植線	1975	10	7.9	伊　賀	柘植町	梯子
8	BR0-242161-00024	前川橋	市道倉部柘植線	1990	12	2	伊　賀	柘植町	梯子
9	BR0-242161-00602	無名第1橋	市道下柘植上柘植線	1944	5	7	伊　賀	柘植町	梯子
10	BR0-242161-00604	洞川橋	市道下柘植上柘植線	1981	10	6	伊　賀	柘植町	梯子
11	BR0-242161-00606	無名第2橋	市道旧大和街道線	1951	3	3.4	伊　賀	柏野	梯子
12	BR0-242161-00607	無名第4橋	市道旧大和街道線	1961	6	4.4	伊　賀	御代	梯子
13	BR0-242161-00608	無名第5橋	市道旧大和街道線	1995	13	6	伊　賀	御代	梯子
14	BR0-242161-00609	無名第6橋	市道旧大和街道線	1961	3	3.6	伊　賀	下柘植	梯子
15	BR0-242161-00610	無名第2橋	市道柏野川西線	1954	3	4	伊　賀	川東	梯子
16	BR0-242161-00612	北打橋	市道余野横地野線	1968	4	2.9	伊　賀	柘植町	梯子
17	BR0-242161-00614	新徳橋	市道野村小杉線	1954	11	2.2	伊　賀	柘植町	梯子
18	BR0-242161-00615	無名第1橋	市道野村小杉線	1961	5	4.5	伊　賀	小杉	梯子
19	BR0-242161-00616	南出橋	市道南出線	1972	12	4.7	伊　賀	下柘植	梯子
20	BR0-242161-00617	無名第1橋	市道愛田新堂停車場線	1959	3.4	3.9	伊　賀	新堂	梯子
21	BR0-242161-00618	無名第1橋	市道春日山線	1983	14	5.3	伊　賀	川東	梯子
22	BR0-242161-00619	無名第1橋	市道炊川東線	1973	7	3.5	伊　賀	川東	梯子
23	BR0-242161-00620	寒風橋	市道寒風線	1987	13	3.5	伊　賀	柘植町	梯子
24	BR0-242161-00621	東竹谷橋	市道加茂東竹谷線	1993	9	4.2	伊　賀	柘植町	梯子
25	BR0-242161-00622	加茂前橋	市道加茂沓垣内線	1960	4	2.8	伊　賀	柘植町	梯子
26	BR0-242161-00623	沓垣橋	市道加茂沓垣内線	1969	14	2	伊　賀	柘植町	梯子
27	BR0-242161-00632	株榎橋	市道倉部新徳線	1980	6	4	伊　賀	柘植町	梯子
28	BR0-242161-00633	無名第1橋	市道栂原線	2011	4	4	伊　賀	柘植町	梯子
29	BR0-242161-00635	大門橋	市道芭蕉公園線	1973	3	9.7	伊　賀	柘植町	梯子
30	BR0-242161-00641	無名第1橋	市道宮谷線	1966	3	3.9	伊　賀	中柘植	梯子
31	BR0-242161-00642	無名第1橋	市道大谷線	1981	5	4.7	伊　賀	上村	梯子
32	BR0-242161-00643	無名第1橋	市道上之垣内線	1991	8	4	伊　賀	上村	梯子
33	BR0-242161-00647	無名第1橋	市道川村１号線	1992	9	4	伊　賀	上村	梯子
34	BR0-242161-00648	無名第1橋	市道小杉宮之前線	1977	7	3.4	伊　賀	小杉	梯子
35	BR0-242161-00650	無名第1橋	市道西線	1965	6	3.4	伊　賀	小杉	梯子
36	BR0-242161-00651	無名第2橋	市道西線	1965	5	4.4	伊　賀	小杉	梯子
37	BR0-242161-00652	無名第1橋	市道中島線	1978	6	4.5	伊　賀	小杉	梯子
38	BR0-242161-00654	無名第1橋	市道下柘植中柘植線	1978	5	4.6	伊　賀	中柘植	梯子
39	BR0-242161-00655	無名第1橋	市道和田安田線	1994	5	5.6	伊　賀	柘植町	梯子
40	BR0-242161-00657	陣地裏橋	市道陣地裏線	1992	13	5	伊　賀	愛田	梯子
41	BR0-242161-00658	無名第1橋	市道陣地裏線	1972	2	18	伊　賀	愛田	梯子
42	BR0-242161-00666	馬場橋	市道馬場線	1980	14	4	伊　賀	下柘植	梯子
43	BR0-242161-00667	無名第1橋	市道南出構線	1965	5	4.6	伊　賀	下柘植	梯子
44	BR0-242161-00668	無名第1橋	市道西之山2号線	1983	4	5.1	伊　賀	新堂	梯子
45	BR0-242161-00673	無名第1橋	市道畔垣内線	1994	11	4.8	伊　賀	御代	梯子
46	BR0-242161-00676	無名第1橋	市道広芝線	1978	10	3.3	伊　賀	下柘植	梯子
47	BR0-242161-00678	滝ヶ鼻橋	市道楯岡小杉線	1978	7	7.2	伊　賀	小杉	梯子
48	BR0-242161-00679	無名橋	市道山道2号線	1982	2	5	伊　賀	川東	梯子
49	BR0-242161-00684	石坂橋	市道愛田山畑1号線	1975	7.5	3.6	伊　賀	愛田	梯子
50	BR0-242161-00685	足谷橋	市道谷出小坂線	1978	7	4.2	伊　賀	山畑	梯子
51	BR0-242161-00686	浜治屋橋	市道中野西構線	1980	5	2.9	伊　賀	川東	梯子
52	BR0-242161-00687	無名第1橋	市道界外2号線	1971	4	2.8	伊　賀	川東	梯子
53	BR0-242161-00688	無名第2橋	市道界外2号線	1972	4	4.9	伊　賀	川東	梯子
54	BR0-242161-00689	若狭橋	市道丸山線	1998	9	8.2	伊　賀	川東	梯子
55	BR0-242161-00690	井戸川橋	市道井戸川法佛線	1969	7.3	3.7	伊　賀	川東	梯子
56	BR0-242161-00693	春日橋	市道春日参道線	1926	7	4.1	伊　賀	川東	梯子
57	BR0-242161-00696	天道橋	市道川西西之沢線	1995	6	4.6	伊　賀	西之澤	梯子
58	BR0-242161-00700	無名第1橋	市道西之沢炊線	1975	4	2.7	伊　賀	西之澤	梯子
59	BR0-242161-00701	無名橋	市道春日山2号線	1968	14	3.6	伊　賀	川東	梯子
60	BR0-242161-00708	大林橋	市道外山波敷野線	1956	4	3.2	阿山	川合	梯子
61	BR0-242161-00710	向出橋	市道中友田楯岡線	1977	14	4.8	阿山	中友田	梯子
62	BR0-242161-00711	請谷橋	市道中友田楯岡線	1976	8	4.7	阿山	上友田	梯子
63	BR0-242161-00713	長尾橋	市道町湯舟長尾線	2001	12	8.2	阿山	湯舟	梯子
64	BR0-242161-00714	小端橋	市道川合大江線	1979	6	4.6	阿山	川合	梯子
65	BR0-242161-00716	谷出橋	市道上友田野村線	1992	14	6.2	阿山	上友田	梯子
66	BR0-242161-00717	無名第1橋	市道上友田野村線	1976	2	3.2	阿山	上友田	梯子
67	BR0-242161-00721	新田橋	市道根組ヶ原本線	1976	5	5.6	阿山	槇山	梯子
68	BR0-242161-00722	宮ノ下橋	市道里出砂ノ谷線	1973	3	4.9	阿山	玉滝	梯子
69	BR0-242161-00724	高橋	市道政所滝谷線	1965	13	6.1	阿山	槇山	梯子
70	BR0-242161-00725	向出橋	市道音羽三田線	1990	12	5.4	阿山	音羽	梯子
71	BR0-242161-00726	無名第1橋	市道向出下出線	1977	2	6.2	阿山	丸柱	梯子
72	BR0-242161-00729	拂子橋	市道芝出拂子橋	1965	11	2.4	阿山	石川	梯子
73	BR0-242161-00730	無名第1橋	市道馬田石川線	1967	2	3.1	阿山	石川	梯子
74	BR0-242161-00731	弁坂橋	市道馬田石川線	1967	6	3.4	阿山	石川	梯子
75	BR0-242161-00732	堂谷橋	市道大平江谷線	1970	4	5	阿山	石川	梯子
76	BR0-242161-00733	無名第1橋	市道村山山添線	1967	2	5	阿山	田中	梯子
77	BR0-242161-00734	野田2号橋	市道前出野田線	1970	4	3	阿山	田中	梯子
78	BR0-242161-00735	山崎橋	市道波敷野大林1号線	1976	7	3.5	阿山	波敷野	梯子

79	BRO-242161-00737	奥ノ田1号橋	市道大廻り里中線	1966	7	3.4	阿山	波敷野	梯子
80	BRO-242161-00741	無名第1橋	市道登龍湯賀野線	1965	2	3.5	阿山	馬田	梯子
81	BRO-242161-00746	無名第1橋	市道波敷野桝形3号線	1967	8	2	阿山	波敷野	梯子
82	BRO-242161-00747	無名第1橋	市道大江樋口谷線	1965	6	4	阿山	川合	梯子
83	BRO-242161-00748	大稲葉橋	市道請谷中鼓線	1975	9	4.7	阿山	上友田	梯子
84	BRO-242161-00749	長町橋	市道長町前構線	1978	14	3.8	阿山	上友田	梯子
85	BRO-242161-00750	山口橋	市道山口岩ノ谷線	1977	14	4.8	阿山	上友田	梯子
86	BRO-242161-00751	里出橋	市道里出岡1号線	1977	14	3.8	阿山	上友田	梯子
87	BRO-242161-00752	象頭垣内橋	市道象頭垣内柳谷線	1973	5	3.6	阿山	上友田	梯子
88	BRO-242161-00753	谷の浦橋	市道谷ノ浦中北線	1978	5	3.4	阿山	東湯舟	梯子
89	BRO-242161-00754	手力橋	市道東湯舟手力口線	1978	7	3.3	阿山	東湯舟	梯子
90	BRO-242161-00755	一本松橋	市道一本松平子線	1969	11.5	3.8	阿山	西湯舟	梯子
91	BRO-242161-00756	東峠橋	市道東峠砂ケ原1号線	1968	2	3	阿山	西湯舟	梯子
92	BRO-242161-00757	鞍馬田橋	市道市ヶ谷東峠線	1976	8	4.5	阿山	西湯舟	梯子
93	BRO-242161-00758	椿本橋	市道ゴロバク向山1号線	1978	14	2.7	阿山	中友田	梯子
94	BRO-242161-00761	ケラハナ橋	市道辻前ゴロバク線	1971	13	3.5	阿山	中友田	梯子
95	BRO-242161-00762	谷出橋	市道白楚西山1号線	1973	5	4.3	阿山	中友田	梯子
96	BRO-242161-00764	辻出橋	市道辻出向小谷線	1972	4	3.4	阿山	下友田	梯子
97	BRO-242161-00765	金頭橋	市道金頭杉ノ前線	1979	14	4.6	阿山	上友田	梯子
98	BRO-242161-00766	治田橋	市道治田東峠線	1977	6	4.5	阿山	西湯舟	梯子
99	BRO-242161-00767	美与曽橋	市道美与僧線	1976	8	4.5	阿山	西湯舟	梯子
100	BRO-242161-00768	木方橋	市道木方鳥喰線	1978	14	3.7	阿山	中友田	梯子
101	BRO-242161-00771	鈴鹿橋	市道鈴鹿1号線	1974	7	3.7	阿山	玉滝	梯子
102	BRO-242161-00772	山ノ下橋	市道蛇上1号線	1971	5	3.3	阿山	玉滝	梯子
103	BRO-242161-00773	二本木橋	市道蛇上二本木線	1971	11	3.6	阿山	玉滝	梯子
104	BRO-242161-00774	畑田橋	市道北出六泉寺線	1971	4	3.6	阿山	玉滝	梯子
105	BRO-242161-00775	東光寺橋	市道中垣内八幡前線	1974	13	2.6	阿山	玉滝	梯子
106	BRO-242161-00776	神社前橋	市道宮ノ下1号線	1974	14	4.9	阿山	玉滝	梯子
107	BRO-242161-00777	城出1号橋	市道城出川上線	1971	7	5.2	阿山	玉滝	梯子
108	BRO-242161-00778	川上橋	市道川上林ノ谷線	1978	5	3.5	阿山	玉滝	梯子
109	BRO-242161-00779	貝山橋	市道新軒寺2号線	1971	9	3.7	阿山	玉滝	梯子
110	BRO-242161-00780	漆原橋	市道新軒寺3号線	1971	10	3.7	阿山	玉滝	梯子
111	BRO-242161-00781	寺前橋	市道貝山線	1971	3	3.6	阿山	玉滝	梯子
112	BRO-242161-00782	笹川橋	市道笹川湯舟線	1977	11	4.6	阿山	玉滝	梯子
113	BRO-242161-00783	井ノ脇橋	市道山ノ神二本木線	1973	6	3.3	阿山	玉滝	梯子
114	BRO-242161-00784	畑ヶ平橋	市道象座垣内野ヶ平線	1983	12	3.8	阿山	槇山	梯子
115	BRO-242161-00785	象座垣内橋	市道象座垣内線	1973	5	3.6	阿山	槇山	梯子
116	BRO-242161-00786	無名第1橋	市道遊免2号線	1979	6	4.5	阿山	槇山	梯子
117	BRO-242161-00788	政所橋	市道政所2号線	1978	6	4.5	阿山	槇山	梯子
118	BRO-242161-00791	中山橋	市道市ヶ平中笹川線	1973	14	4.7	阿山	玉滝	梯子
119	BRO-242161-00792	山ノ下橋	市道宮ノ下山ノ下線	1986	9	2	阿山	玉滝	梯子
120	BRO-242161-00800	東出1号橋	市道丸柱下出線	1975	13	3.8	阿山	丸柱	梯子
121	BRO-242161-00801	西出1号橋	市道西出樋ヶ谷線	1975	9	3.2	阿山	音羽	梯子
122	BRO-242161-00802	南出橋	市道東代南出線	1986	10	4.8	阿山	音羽	梯子
123	BRO-242161-00803	西出2号橋	市道前田西出線	1970	5	3.8	阿山	音羽	梯子
124	BRO-242161-00804	東出橋	市道田中佐路田線	1970	9	1.9	阿山	音羽	梯子
125	BRO-242161-00805	太田橋	市道音羽波敷野線	1970	7	3.4	阿山	波敷野	梯子
126	BRO-242161-00806	川尻橋	市道鯨川尻線	1967	9	2.2	阿山	音羽	梯子
127	BRO-242161-00807	無名1号橋	市道溝添1号線	1980	6	3.5	阿山	玉滝	梯子
128	BRO-242161-00812	新橋	市道八幡前新軒寺線	1974	12	5.7	阿山	玉滝	梯子
129	BRO-242161-00814	荒堀橋	市道西湯舟荒堀線	1992	9	9.2	阿山	西湯舟	梯子
130	BRO-242161-00815	滝ヶ口橋	市道瀧ケ口線	1975	10	3.8	阿山	丸柱	梯子
131	BRO-242161-00816	西出橋	市道上友田新堂線	1985	14	8.4	阿山	上友田	梯子
132	BRO-242161-00817	新吉谷橋	市道上友田新堂線	1987	12	8.7	阿山	上友田	梯子

		平均橋長	平均幅員
橋長15m未満	点検車　６橋	12.3	5.0
橋長15m未満	梯子　１２６橋	7.8	4.4

番号	国交省管理用番号	道路橋名	市道名	共架年	橋長（m）	幅員（m）	所在地		点検評価
1	BR0-242161-00628	上切橋	市道古宮線	1977	21	2.6	伊賀	柘植町	点検車
2	BR0-242161-00723	砂ノ谷橋	市道里出砂ノ谷線	1977	17	4.7	阿山	玉滝	梯子
3	BR0-242161-01427	島川橋	市道西出線	1978	16.5	4.2	伊賀	中柘植	梯子

	平均橋長	平均幅員
橋長15m以上　点検車　１橋	21.0	2.6
橋長15m以上　梯子２橋	16.8	5.8

特　記　仕　様　書

１．目的

本業務は、伊賀市が管理する橋梁の現状を把握し、橋梁の維持管理に必要となる基礎資料を得ることを目的とする。

２．適用図書

本業務の橋梁点検に関する作業については、「伊賀市橋梁点検要領令和２年６月」によること。

３．点検従事者について

点検業務に従事する者のうち１名は、「三重県橋梁点検技術者講習会」を受講し、受講証明書の交付を受けた者とする。

４．点検業務について

（１）　計画準備

①　業務計画書

・伊賀市より貸与された資料等をもとに、業務計画書を作成する。

・業務計画書には、「三重県橋梁点検技術者講習会」の受講証明書を添付すること。

②　図面作成

・伊賀市により提供された橋梁台帳により、チェックシートの概略図を作成する。ただし、橋梁一般図等がない場合は、請負者において現地調査を行い、点検要領に基づく点検に必要な概略図を作成すること。

（２）　現地踏査

・橋梁点検に先立って現地調査を行い、点検計画を策定するために必要な進入路、交通状況等を把握すること。

（３）関係機関協議

・他機関との協議が必要な橋梁については、監督員へ報告すること。

（４）　点検

・「伊賀市橋梁点検要領令和２年６月」に基づき点検を行う。また、必要に応じて橋梁台帳の記載事項（塗装面積、高欄の種類、落橋防止施設の種類等）を補完するために現地で調査を行う。なお、支承については、損傷がなくても各支点（橋台・橋脚）で１ヶ所写真を撮影すること。

・支承等に土砂が被さっている場合は、それを撤去したうえで点検を行うこと。

（５） 点検調書作成

・点検結果をもとに、伊賀市橋梁点検要領のチェックシートを清書し、写真等の整理を行う。

・点検結果を発注者が提供するエクセルシートに入力すること。

（６） 打合せ

・作業計画書をもとに、調査方法、内容等を打ち合わせるとともに、発注者より橋梁点検に必要な資料等の貸与を受けること。

（７） 安全管理

・本業務を実施するにあたり、本特記仕様書に定める図書のほか、関連法令等を遵守し、作業の安全確保に努めること。

（８） 土地の立ち入り等について

・本業務を実施するために第三者の土地に立ち入る場合、または、第三者所有の草木等の伐採が必要な場合は、受注者において了解を得ること。

（９） 健全度評価

・本業務で点検を行った橋梁について、「伊賀市橋梁点検要領損傷事例」を参考に、損傷度の見直しを行い、橋梁の健全度評価（４段階）を行うこと。

（１０） その他

・本特記仕様書に定めないものは、「三重県業務委託共通仕様書」によるものとする。

（１１） 工程管理（履行報告）

・業務計画書に基づき全体工程を作成し、毎月末の履行状況を所定の様式に基づき作成し、翌月の３日までに監督員に提出すること。なお、工程に遅れが生じている場合は、全体工程を修正し、履行状況の提出に併せて修繕全体工程表を提出すること。

（１２） 橋梁点検データの整理について

・伊賀市橋梁点検要領令和２年６月Ｐ93 からＰ107 に基づくこと。

・データの整理が完了後、橋梁点検データを三重県建設技術センターでフォルダ構成等の作業を行いますので、不適合が見受けられた場合は、修正等の作業を行うこと。なお、時期については監督員と協議を行うこと。

保管用データ作成にかかる追加特記仕様書
（橋梁点検データ管理用）

本追加特記仕様書は、業務の委託を受けた者（以下「乙」という。）が成果品として定められている電子納品用成果とは別に、発注者（以下「甲」という。）データ保管のための電子データ（以下「保管用データ」という。）の作成について定めるものである。

１　通　則

保管用データ作成については、本追加特記仕様書に基づき実施するものとし、本追加特記仕様書等に明示なき事項、又は疑義が生じた場合には、甲乙協議の上これを定めるものとする。

２　提出部数及び収蔵電子媒体

（１）作成部数１部

（２）収蔵電子媒体はＤＶＤ-ＲまたはＣＤ-Ｒを用いるものとするが、甲との協議により了承を得た場合はこの限りではない。

（３）提出する収蔵電子媒体は、最新のバージョンによるウイルスチェックを実施し、脅威が検出されていない旨を甲に報告しなければならない。

３　橋梁基本情報の作成

（１）橋梁基本情報とは、対象となる橋梁の諸元（位置や橋梁名など）を示すものであり、甲より作成の指示のあった場合は、別途甲より提供する様式「橋梁基本情報登録」において必要な情報を入力し、提出しなければならない。

（２）甲より配布される様式類については、レイアウト（行や列の挿入・削除）等改変することはできない。やむを得ず改変する場合は、甲に改変内容を書面にて提示しなければならない。

４　橋梁点検にかかる保管用データの作成（参考資料参照）

（１）橋梁点検については、別途特記仕様書に示されている伊賀市橋梁点検要領に基づき実施し、保管用データを取りまとめ格納しなければならない。

① 保管用データ格納フォルダーは、橋梁毎に所定のフォルダー構成でチェックシート、橋梁管理カルテ、国が定める記録様式のエクセルファイルを格納したものを、甲より乙に配布する。

②甲より配布される様式類は、レイアウト（行や列の挿入・削除）等改変することはできない。やむを得ず改変する場合は、甲に報告し協議のうえ指示を得なければならない。

③ チェックシート、橋梁管理カルテ、国が定める記録様式の成果データは、配布したエクセルファイルを用いて作成しなければならない。なお、エクセルファイルは個別の橋梁単位で作成しているため、別の橋梁に複写して作成してはならない。

④ 保管用データ格納フォルダーは、橋梁単位、径間単位で格納しているため現地と相違がある場合、甲に報告し協議のうえ指示を得なければならない。

（２）報告書フォルダーには、別途示す「業務対象橋梁一覧」を格納しているため、対象橋梁の確認を行い、相違がある場合は甲に報告し協議のうえ指示を得なければならない。

（３）報告書フォルダーには、設計報告書をＰＤＦにて一式格納しなければならない。

（４）報告書フォルダーには、甲より指示のない限り、オリジナルデータは格納してはならない。

（５）その他伊賀市橋梁点検要領に記載のないものについては、甲と協議のうえ指示を得なければならない。

（６）成果品（保管用データ）については、甲より提供されるチェックシステムを用いてチェックを行い、エラーの無いように修正しなければならない。

（７）チェックシステムにおける警告事案に関しては、警告内容を甲に書面にて報告し、協議のうえ指示を得なければならない。

（８）本追加特記仕様書に示す仕様と異なるもので提出された場合、甲より補修の要請があった場合は、その仕様に合致するよう乙の責により補修しなければならない。

【参考資料】

１．橋梁基本情報登録について

２．橋梁点検にかかる保管用データ格納フォルダー構成について

３．業務対象橋梁一覧について

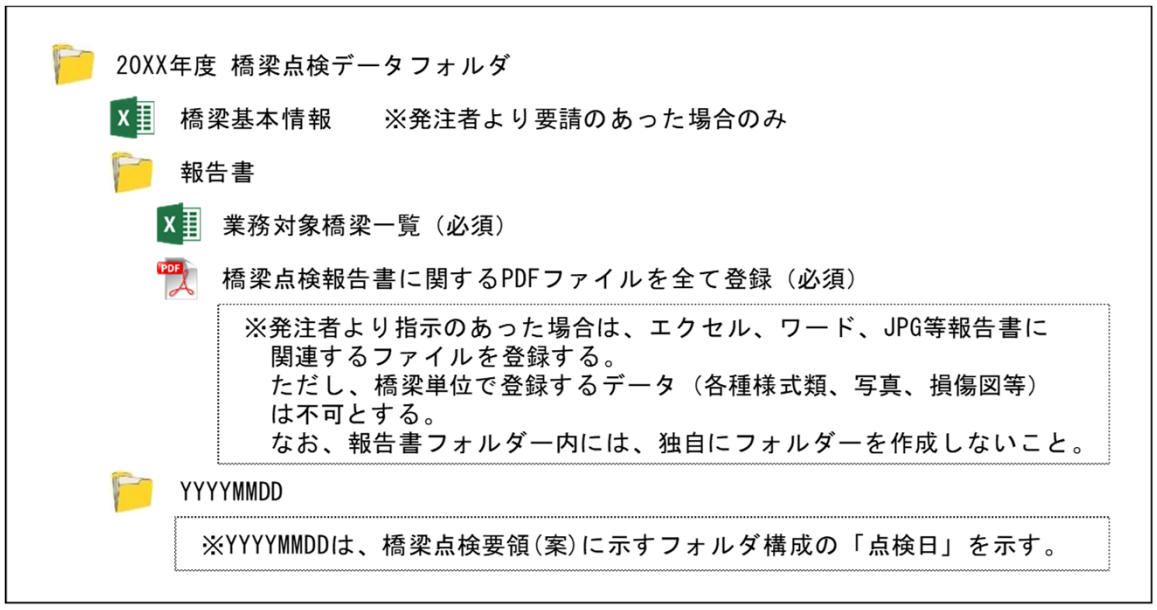
【参考資料】

１．「橋梁基本情報登録」について

別途指定する様式に基づき、橋梁基本情報を作成する。

橋梁基本情報の作成において、「橋梁番号、分割番号、管理者、道路種別、路線番号、路線名、市町村名、現旧新別、橋梁種別、橋梁分類、橋梁名、上部工構造形式、上部工使用材料、架設年次、橋長、径間数、橋梁名かな、起点側緯度、起点側経度」が入力必須項目となる。

２．「橋梁点検にかかる保管用データ格納フォルダー構成」について



※各橋梁毎に格納するデータ等のフォルダ構成やファイル形式、細則等については伊賀市橋梁点検要領の最新版による。

※20XX年度 橋梁点検データフォルダの命名規則について

フォルダ名は、「20XX年度␣橋梁点検」という文字を含めて命名を行う。

「20XX年度␣」を先頭として、「橋梁点検」という文字をどこかに含める。

なお、″␣″は空白（スペース）を意味し、半角か全角かは問わない。

３．報告書フォルダーに組み込む「業務対象橋梁一覧」について

	A	B	C	D	E	F	G
1	橋梁番号	分割番号	路線名	橋梁名			
2	10010	0	町道○○線	○○橋			
3	10020	0	町道○○線	○○橋			
4	10030	0	町道○○線	○○橋			
5	10040	0	町道○○線	○○橋			
6	10050	0	町道○○線	○○橋			
7	10060	1	町道○○線	○○橋			
8	10060	2	町道○○線	○○橋			
9	10070	0	町道○○線	○○橋			
10	10080	0	町道○○線	○○橋			
11	10090	0	町道○○線	○○橋			
12							
13							
14							

※エクセルシートを用い、一行目Ａ列に橋梁番号、Ｂ列に分割番号、Ｃ列に路線名、Ｄ列に橋梁名のタイトルを入力し、二行目からそれぞれ該当情報を入力したものを格納する。

特記仕様書（設計業務条件一覧表）

明示項目		明示事項（条件及び内容）
ア	適用図書	☑ 設計業務等委託契約書 ☑ 設計業務等共通仕様書（三重県）【平成27年11月制定】 部分改正を行った内容も含む（最新改正　令和３年４月１日） □ 三重県公共工事共通仕様書（三重県）【平成28年７月制定】 部分改正を行った内容も含む（最新改正　　年　　月） ☑ その他（三重県を伊賀市と読み替える。）
イ	業務計画等	☑ 契約締結後　14　日以内に業務計画書（工程表）を監督員に提出する。 ☑ 業務完了の10日前までに数量報告書（工種、設計数量、実施数量等を記載）を監督員に提出する。 ☑ 業務日報は、監督員が提出を要求したときすみやかに提出する。 □ その他（　　）
ウ	成果の提出	□ 電子記憶媒体で提出すること。 ☑ 本業務における成果物の提出部数は、（　□ ３部 ☑ （２ ）部）とする。 ☑ 指示する期日までに提出する成果物あり。（　監督員と協議による。　） ☑ 検査用として成果物の印刷物（Ａ４版簡易ファイル、年度・委託名・完成年月・受発注者名を明示、図面は袋とじ）を１部提出する。 □ その他（　　）
エ	工程関係	□ 別途業務との工程調整の必要あり （別途業務名：　　） □ 関係機関との協議の必要あり（別途資料作成必要あり） ☑ その他（毎月末の履行報告書を翌月３日までに監督員に提出すること。） （工程に遅れが生じている場合は、全工程を修正し、履行報告書の提出に併せて修正全体工程表を提出すること。）
オ	管理技術者の要件	管理技術者は、（　□ 下記の者　☑ 下記のいずれかの者）とする。 ☑ 技術士 （☑　建設　部門 鋼構造及びコンクリート　科目 □ 部門・科目を問わない） ☑ 上記の技術士と同等の能力と経験を有する技術者（技術管理者） ☑ ＲＣＣＭの資格保持者 （☑ 鋼構造及びコンクリート 部門、　□ 部門を問わない） □ 受注者の責任において定めた、業務の履行に必要な知識と経験を有する者
	管理技術者のその他要件	☑ 配置予定技術者届出書に記載した技術者を契約時に配置しなければならない。 ☑ その他（監理技術者及び照査技術者の兼務はできないものとする。）

（注）
1．上記受託業務事項・条件及び内容のレ印該当欄は、作業に当たって制約を受ける事となるので明示する。
2．明示事項に変更が生じた場合及び明示されていない制約等が発生したときは、発注者と別途協議し、適切な措置を講ずるものとする。
3．別途協議とは、設計・現場説明又は作業打合せ等により協議するものとする。

伊賀市
令和2年5月

特記仕様書（設計業務条件一覧表）

明示項目		明示事項（条件及び内容）
カ	照査技術者	□ 概略・予備・詳細設計等については、照査技術者を定めなければならない。 ☑ 次の業務には、照査技術者を定めなければならない。 （ 業務全般 ）
	照査技術者の要件	照査技術者は、（ □ 下記の者 ☑ 下記のいずれかの者）とする。 ☑ 技術士 （□ 部門 科目、 □ 部門、 ☑ 部門・科目を問わない） ☑ 上記の技術士と同等の能力と経験を有する技術者（技術管理者） ☑ ＲＣＣＭの資格保持者 （□ 部門、 ☑ 部門を問わない） □ 受注者の責任において定めた、業務の履行に必要な知識と経験を有する者 ☑ その他（監理技術者及び照査技術者の兼務はできないものとする。）
	照査の実施	☑ 照査は下記も含めて実施し、これに基づいて作成した資料は照査報告書に含めて提出しなければならない。 ☑ 詳細設計照査要領（国土交通省大臣官房技術調査課監修（平成29年3月版）） □ その他（ ）
キ	打合せ等	☑ 設計業務等着手時及び成果物納入時（成果物案の打合せ時を含む）及び設計図書で定める業務の区切りにおける打合せには、管理技術者が出席するものとする。 ☑ 中間打合せ回数は 1 回とする。 ☑ 中間打合せについては、管理技術者が出席するものとする。 ☑ 照査技術者については（ ☑ 設計業務着手時 ☑ 中間打合せ 1 回 ☑ 成果物納入時（成果物案の打合せ時を含む））の打合せに出席するものとする。
ク	資料の貸与	☑ 発注者の貸与する資料は、次のとおりとする。 （ 道路台帳 ）

（注）
1．上記受託業務事項・条件及び内容のレ印該当欄は、作業に当たって制約を受ける事となるので明示する。
2．明示事項に変更が生じた場合及び明示されていない制約等が発生したときは、発注者と別途協議し、適切な措置を講ずるものとする。
3．別途協議とは、設計・現場説明又は作業打合せ等により協議するものとする。

伊賀市
令和2年5月

特記仕様書（設計業務条件一覧表）

明示項目		明示事項（条件及び内容）	
ケ	業務条件	□	業務条件は下記のとおりとする。
コ	その他	☑	成果物の中で他の文献、資料等を引用した場合出典名を報告書に明記すること。
		☑	設計に採用する材料等について、「三重県リサイクル製品利用推進条例」に基づく認定リサイクル製品に該当する材料等がある場合は、採用を検討すること。 検討した結果、該当する材料等については、監督員と協議のうえ、成果物（設計図面、数量計算書等）の使用材料を表示する欄に「認定リサイクル製品」と記載すること。
		☑	暴力団員等による不当介入（伊賀市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱第２条第１１号）を受けた場合の措置について (1) 受注者は暴力団員等（伊賀市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱第２条第９号）による不当介入を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに三重県警察本部に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うこと。 (2) (1)により三重県警察本部に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行った場合には、速やかに発注者に報告すること。発注者への報告は必ず文書で行うこと。 (3) 受注者は暴力団員等により不当介入を受けたことから工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議を行うこと。

（注）
1．上記受託業務事項・条件及び内容のレ印該当欄は、作業に当たって制約を受ける事となるので明示する。
2．明示事項に変更が生じた場合及び明示されていない制約等が発生したときは、発注者と別途協議し、適切な措置を講ずるものとする。
3．別途協議とは、設計・現場説明又は作業打合せ等により協議するものとする。

伊賀市
令和2年5月

橋梁基本

管理者		道路種別		路線番号		路線名		整理番号		整理番号	

基本諸元

（ふりがな）		橋梁コード		市町村名		大字小字名			
橋名		分割番号							
現旧新別		橋梁種別		橋梁分類		路面位置			
上部工構造形式		架設年次		橋格		センサス年度			
上部工使用材料		橋長 (m)		現況		センサス番号			
上部工床版形式		最大支間長(m)		耐荷荷重		自動車類交通量			
下部工基礎		総径間数		設置箇所		大型車交通量			
舗装種別		（単位 m）	全幅員	車道幅員	路肩幅員左	路肩幅員右	歩道幅員左	歩道幅員右	中央帯幅員
適用示方書		幅員構成							
緊急輸送道路指定		管理グループ		橋梁中心X座標			橋梁中心Y座標		
架橋状態		備考							

概略側面図・断面図・平面図

全景写真1

全景写真2

点検調書（1/1）

点検区分	(定期)・緊急	前回点検日		径間番号		上部工構造形式	
点検方法	(目視)・調査	点検種別	(直営)・委託・その他	支間長(m)		下部工構造形式	

橋梁名		橋梁コード 分割番号		建設部名		路線番号	
				道路種別		路線名	
点検日		点検会社名		点検者名		市町村名	

部材（部位）		前回点検の評価				代表的な損傷状況・位置などの概要		損傷度（最悪値）	健全性（4段階）	写真番号
		点検区分	損傷度（最悪値）	健全性（4段階）	写真番号	点検区分	記事			
橋面工（その他）	路面									
	伸縮装置									
	高欄　等									
	排水施設									
	その他付属物									
上部工	主桁									
	横桁・縦桁									
	床版									
下部工	下部工躯体									
	基礎									
支　承	本体									
	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ									
	落橋防止ｼｽﾃﾑ									
	モルタル									
その他部位（部材）	点検施設									
	遮音施設									
	照明施設									
	添架物									

全体損傷概要	

健全性	内容
Ⅰ	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ	構造物の機能に支障が生じていないが、 予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状
Ⅲ	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、 早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が

備　考	

損傷スケッチ図（1/○）

橋 梁 名		橋梁コード 分割番号		建 設 部 名 道 路 種 別		路線番号 路 線 名	
点 検 日		点 検 会 社 名		点 検 者 名		市町村名	

上部工 or 下部工損傷位置図

損傷写真集（1/○）

橋梁名		橋梁コード 分割番号		建設部名 道路種別		路線番号 路線名	
点検日		点検会社名		点検者名		市町村名	

	写真番号		
	径間番号		
	部材番号		
	損傷状況		
	健全性		
	備考		

	写真番号		
	径間番号		
	部材番号		
	損傷状況		
	健全性		
	備考		

補修履歴調書（１/○）

橋 梁 名		橋梁コード		建設部名	
		分割番号		道路種別	
		径間番号		上部工構造形式	
		支間長(m)		上部工使用材料	

項目	内容	損傷概要のわかる図面	損傷概要のわかる写真
補修Ｎｏ.			
補修および改良年月日			
対象部材			
補修・改良理由			
損傷原因			
補修・改良工法			
工事費用（百万）			
適用示方書			
補修補強面積（m2）			
備考			

項目	内容	損傷概要のわかる図面	損傷概要のわかる写真
補修Ｎｏ.			
補修および改良年			
対象部材			
補修・改良理由			
損傷原因			
補修・改良工法			
工事費用（百万）			
適用示方書			
補修補強面積（m2）			
備考			

コメント	

点検項目			県市町名		路線名		橋種		点検日	
			橋梁コード		位置(起点側)		橋長(m)		点検者	
			橋梁名		位置(終点側)		総径間数		点検径間番号	
									上部工塗装面積	

点検項目			損傷状況	損傷程度の評価(該当する項目に〇を付けて下さい)点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号(複数記入可)	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
				該当部材無し	O.K (健全性:Ⅰ)	B1 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	B2 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	A (健全性:Ⅰ～Ⅱ)				
1	橋面	路面	路面の凹凸	部材無し	凹凸20mm未満の損傷がある。 損傷箇所が少ない。	凹凸20mm以上の損傷がある。 損傷箇所が比較的多い。	凹凸30mm以上の損傷がある。 損傷箇所や面積が多く広い。	車両等の通行に支障がある(凹凸40mm以上)損傷がある。				供用性を評価
2			舗装の異常	部材無し	舗装ひび割れ幅5mm以下である。 密集度が低い。	舗装ひび割れ幅5mm以上で深さが床版に達している。発生箇所数や面積は少ない。	舗装ひび割れ幅10mm以上で舗装直下のコンクリートが土砂化している。 発生箇所や面積が多い。	車両等の通行に於いて減速や迂回を必要とするような損傷がある。				
3		伸縮装置	遊間の異常	部材無し	各遊間に差はあるが必要程度の遊間は確保されている。	各遊間の間隔が極端に異なっている。直角方向にずれている。	装置の櫛の歯が完全に離れている。 桁とパラペットあるいは桁同士が接触している。	遊間の異常な広がりや装置の座屈変形によるせり上がり等により、第三者に障害を及ぼす懸念がある。				供用性を評価
4			路面の凹凸	部材無し	凹凸20mm未満の損傷がある。 損傷箇所が少ない。	凹凸20mm以上の損傷がある。 損傷箇所が比較的多い。	凹凸30mm以上の損傷がある。 損傷箇所や面積が多く広い。	車両等の通行に支障がある(凹凸40mm以上)損傷がある。				伸縮装置固定部の後打ちコンクリートを評価
5			鋼製ジョイントの場合 腐食, 亀裂, ゆるみ・脱落, 破断など	部材無し	鋼材の表面に部分的な腐食がある。	鋼材表面全体に錆が発生している。 櫛の歯の一部に軽微な破断や欠損がある。	錆の発生が激しく板厚の減少がある。 櫛の歯に比較的大きな亀裂や破断がある。	櫛の歯の破断や欠損により、通行車両等に障害(パンク、転倒)を及ぼす懸念がある。				
6			変形・欠損、漏水など　(ゴム系)	部材無し	経年劣化がある。	部分的に軽度の変形・欠損、漏水などがある。	部材全体に劣化が進み比較的大きな変形や欠損がある。 欠損箇所から橋面下への漏水が見られる。	部材に著しい変形や欠損が生じている。 第三者の通行に支障がある。				
7		高欄・防護柵・地覆・中央分離帯	腐食,変形・欠損など	部材無し	(鋼部材の場合)錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満。 部材等の変形、欠損はない。 (コンクリート部材の場合) 部材等の変形、欠損、鉄筋の露出はない。	(鋼部材の場合)錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はないが、錆びの面積は50%以上。 部材等の変形、欠損はあるが軽微である。 (コンクリート部材の場合) 部材等の変形、欠損、鉄筋の露出はあるが軽微である。	(鋼部材の場合)錆による板厚の減少や断面欠損があるが、錆びの面積は50%未満。 部材の一部が局部的に著しく変形し一部が欠損している。 支柱下地覆が欠損し支柱が浮いている。 (コンクリート部材の場合) 部材の一部が局部的に著しく変形し一部が欠損している。	(鋼部材の場合)車両の衝突による変形や腐食による断面欠損があり、錆びの面積が50%以上である。 損傷により逸脱防止構造(支柱や梁)の機能が失われ車両や通行人に支障がある。 (コンクリート部材の場合) 損傷により逸脱防止構造(支柱や梁)の機能が失われ車両や通行人に支障がある。				供用性を評価
8		排水施設 桝、管	腐食,変形・欠損など	部材無し	軽微な腐食はあるが、変形、欠損はない。	部材が局所的に変形している。 排水管全体が腐食している。	部材全体が著しく腐食して部分的に欠損している。 桝の一部に変形や欠損がある。	排水管の腐食が著しく部材が欠損し、機能不全を生じている。 排水桝が消失し空隙が生じ第三者の通行に支障がある。				供用性を評価
9		その他付属物	腐食,変形・欠損など	部材無し	軽微な腐食はあるが、変形、欠損はない。	部材が局部的に変形し、一部が著しく欠損している。	部材が全体的に著しく変形したり、欠損している。	橋上施設部材の変形や異常により第三者の通行に支障がある。				供用性を評価

点検項目				県市町名		路線名		橋種		点検日	
				橋梁コード		位置(起点側)		橋長(m)		点検者	
				橋梁名		位置(終点側)		総径間数		点検径間番号	
										上部工塗装面積	

点検項目				損傷状況	損傷程度の評価(該当する項目に〇を付けて下さい)点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号(複数記入可)	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K (健全性:Ⅰ)	B1 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	B2 (健全性:(Ⅰ～Ⅲ)	A (健全性:Ⅱ～Ⅳ)				
10	上部工	鋼	主桁	腐食・防食機能の劣化	部材無し	皮膜に変色はない。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満である。	皮膜が一部劣化している。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はない。(錆び面積50%以上) 板厚減少を伴わない局部的な膨張がある。	皮膜が劣化し点錆が発生している。 錆の発生により部材(支点、支間中央付近以外)に著しい膨張が生じ板厚の減少が見られる。	皮膜の劣化範囲が広くし点錆が発生している。 耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる板厚の減少が(支点、支間中央付近など)ある。				耐荷性に直接影響する
11				亀裂・破断	部材無し	損傷なし	溶接接合部や鋼材の塗装表面に局部的な塗膜割れや亀裂やなどが見られる。亀裂が線状でなく短く、数が少ない。	溶接接合部や鋼材の塗装表面に線状の亀裂がある。亀裂の長さや発生本数が比較的長く多い。 亀裂が鋼材内部に生じている可能性がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる大きな亀裂や破断が(支点付近に)ある。				
12				ゆるみ・脱落	部材無し	損傷なし	一群の添接部所に於いて5%未満のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常があり且つ一列一行に一本以上の異常がある。 B2の損傷状況且つ遅れ破壊を伴う材料(F11T)を使用。				
13				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形(座屈等)や欠損がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損が(支点や支間中央付近など)ある。				
14			横桁・縦桁	腐食・防食機能の劣化	部材無し	皮膜に変色はない。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満である。	皮膜が一部劣化している。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はない(錆び面積50%以上)である。 板厚減少を伴わない局部的な膨張がある。	皮膜が劣化し点錆が発生している。 錆の発生により部材(支点、支間中央付近以外)に著しい膨張が生じ板厚の減少が見られる。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる板厚の減少が(接合部、支間中央付近など)ある。				耐荷性に影響する部材
15				亀裂・破断	部材無し	損傷なし	溶接接合部や鋼材の塗装表面に局部的な塗膜割れや亀裂やなどが見られる。 亀裂が線状でなく短く、数が少ない。	溶接接合部や鋼材の塗装表面に線状の亀裂があり、亀裂の長さや発生本数が比較的長く多い。 亀裂が鋼材内部に生じている可能性がある。	耐荷力に影響に影響(断面定数の低下)すると思われる大きな亀裂や破断が(接合部、支間中央付近など)ある。				
16				ゆるみ・脱落	部材無し	損傷なし	一群の添接部所に於いて5%未満のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常があり且つ一列一行に一本以上の異常がある。 B2の損傷状況且つ遅れ破壊を伴う材料(F11T)を使用。				
17				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形(座屈等)や欠損がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損がある。				
18			床版	腐食・防食機能の劣化	部材無し	皮膜に変色はない。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満である。	皮膜が一部劣化している。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はない。(錆び面積50%以上) 板厚減少を伴わない局部的な膨張がある。	皮膜が劣化し点錆が発生している。錆の発生により部材(支点、支間中央付近以外)に著しい膨張が生じ板厚の減少が見られる。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる板厚の減少が(接合部、支間中央付近など)ある。				耐荷性に影響する部材
19				亀裂・破断	部材無し	損傷なし	溶接接合部や鋼材の塗装表面に局部的な塗膜割れや亀裂などが見られる。 亀裂が線状でなく短く、数が少ない。	溶接接合部や鋼材の塗装表面に線状の亀裂がある。 亀裂の長さや発生本数が比較的長く多い。 亀裂が鋼材内部に生じている可能性がある。	耐荷力に影響に影響(断面定数の低下)すると思われる大きな亀裂や破断がある。				
20				ゆるみ・脱落	部材無し	損傷なし	一群の添接部所に於いて5%未満のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常があり且つ一列一行に一本以上の異常がある。 B2の損傷状況且つ遅れ破壊を伴う材料(F11T)を使用。				
21				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形(座屈等)や欠損がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損がある。				

点検項目				県市町名		路線名		橋種		点検日	
				橋梁コード		位置(起点側)		橋長(m)		点検者	
				橋梁名		位置(終点側)		総径間数		点検径間番号	
										上部工塗装面積	

点検項目				損傷状況	損傷程度の評価(該当する項目に〇を付けて下さい)点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号(複数記入可)	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K (健全性:Ⅰ)	B1 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	B2 (健全性:(Ⅰ～Ⅲ)	A (健全性:Ⅱ～Ⅳ)				
22	上部工	コンクリート	主桁	RC桁のひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅03mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.3mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。 せん断ひび(支点付近に斜め45°)が発生している。				耐荷性に直接影響する
23				PC桁のひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.1mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.2mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。				
24				剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋の一部(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく、わずかに断面の減少が見られる。	主たる鉄筋のほとんどが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。				
25				漏水・遊離石灰	部材無し	損傷なし	ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	ひび割れから著しい漏水や遊離石灰、僅かな錆汁が発生している。 (単なる水滴や表面の伝い水によ	内部鉄筋の腐食を表すような多くの漏水や錆汁が発生している。				
26				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形がある。 欠損が著しい。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損が(支点、支間中央付近など)ある。				
27			横桁・縦桁	RC桁のひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅03mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.3mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。 せん断ひび(支点付近に斜め45°)が発生している。				耐荷性に影響する部材
28				PC桁のひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.1mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.2mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。				
29				剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく断面の減少が見られる。	主たる鉄筋のほとんどが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。				
30				漏水・遊離石灰	部材無し	損傷なし	ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	ひび割れから著しい漏水や遊離石灰、僅かな錆汁が発生している。 (単なる水滴や表面の伝い水によ	内部鉄筋の腐食を表すような多くの漏水や錆汁が発生している。				
31				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	変形がある。 または欠損がある。	著しい変形がある。 または欠損が著しい。	耐荷力に影響すると思われる変形や欠損がある。				
32			床版 (張出部含む)	剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく僅かに断面の減少が見られる。	主たる鉄筋のほとんどが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。				耐荷性に直接影響する
33				漏水・遊離石灰,うき,変色・劣化	部材無し	損傷なし	コンクリートの劣化がある。ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	コンクリートの劣化が激しい。ひび割れから著しい漏水や遊離石灰,、錆汁が生じている。 (単なる水滴や表面の伝い水による遊離石灰は除く)	漏水等の風化作用によりコンクリートや鉄筋の劣化が進み材料強度低下が考えられ耐荷力に影響を与えている。				
34				抜け落ち	部材無し	損傷なし	－	－	コンクリートの抜け落ちがある。				
35				床版ひび割れ	部材無し	性状、主として一方向のみに発生。 ひび割れ幅0.1mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	性状、格子状直前の状況に発生。 ひび割れ幅0.2mm未満 ,ひび割れ間隔0.5m程度	性状、格子状に発生。 ひび割れ幅0.2mm以上が連続 ひび割れ間隔0.2m以下の格子状	床版の疲労による劣化が加速期に達して、構造が等方性版から異方性へと変化し、耐荷力に影響すると思われる。				
36				定着部の異常	部材無し	軽微なひび割れがある。	PC鋼材の定着部より錆汁が認められる。または定着部に損傷が認められる。	PC鋼材の定着部のコンクリートが剥離している。または定着部に著しい損傷がある。	定着具やアンカープレートに大きな変形が見られる。				
37				漏水・滞水	部材無し	損傷なし	伸縮装置からの漏水や排水装置からの漏水による伝い水がある。	－	－				

点検項目				県市町名		路線名		橋種		点検日	
				橋梁コード		位置(起点側)		橋長(m)		点検者	
				橋梁名		位置(終点側)		総径間数		点検径間番号	
										上部工塗装面積	

点検項目				損傷状況	損傷程度の評価(該当する項目に〇を付けて下さい)点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号(複数記入可)	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K (健全性:Ⅰ)	B1 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	B2 (健全性:(Ⅰ～Ⅲ)	A (健全性:Ⅱ～Ⅳ)				
38	下部工	鋼	橋脚躯体	腐食・防食機能の劣化	部材無し	皮膜に変色が生じ、錆の発生があるが部分的である。	皮膜が剥離し全体に錆の発生がある。板厚減少を伴わない局部的な膨張がある。	錆の発生により部材に著しい膨張が生じ板厚の減少が見られる。	耐荷力に影響に影響(断面定数の低下)すると思われる板厚の減少がある。				耐荷性に影響する部材
39				亀裂・破断	部材無し	損傷なし	溶接接合部や鋼材の塗装表面に局部的な塗膜割れや亀裂やなどが見られる。亀裂が線状でなく短く、数が少ない。	溶接接合部や鋼材の塗装表面に線状の亀裂がある。亀裂の長さや発生本数が比較的長く多い。亀裂が鋼材内部に生じている可能性がある。	耐荷力に影響に影響(断面定数の低下)すると思われる大きな亀裂や破断がある。				
40				ゆるみ・脱落	部材無し	損傷なし	一群の添接部所に於いて5%未満のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常があり且つ一列一行に一本以上の異常がある。 B2の損傷状況且つ遅れ破壊を伴う材料(F11T)を使用。				
41				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形(座屈等)や欠損がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損がある。				
42		コンクリート	橋台躯体・橋脚躯体	ひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅03mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.3mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。 主桁が落橋する様な大きな割れがある。				
43				剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく断面の減少が見られる。	主たる鉄筋の全てが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。				
44				漏水・遊離石灰	部材無し	損傷なし	ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	ひび割れから著しい漏水や遊離石灰、僅かな錆汁が発生している。 (単なる水滴や表面の伝い水による遊離石灰は除く)	内部鉄筋の腐食を表すような多くの錆汁が発生している。 発生箇所が広範囲で耐荷力に影響すると思われる鉄筋の断面減少が予想される。				
45		基礎		沈下,移動,傾斜	部材無し	損傷なし	沈下、移動や傾斜の疑いがある。	明らかな沈下、移動、傾斜現象が見られる。	落橋の恐れがある。				
46				洗掘	部材無し	損傷なし	軽微な洗掘がある。	比較的大きな(深く、長く、広い)洗掘現象が見られる。	落橋の恐れがある。				

点検項目				損傷状況	損傷程度の評価(該当する項目に〇を付けて下さい)点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号(複数記入可)	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K (健全性:Ⅰ)	B1 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	B2 (健全性:(Ⅰ～Ⅲ)					
47	その他	支承	本体	腐食, 亀裂, ゆるみ・脱落, 破断など	部材無し	板厚減少が見られない程度の腐食 が発生。	鋼材表面に著しい膨張が発生。	腐食により崩壊、消失をきたし路面に段差が生じ通行車両に支障。					
48				支承の機能障害	部材無し	損傷なしor損傷軽微	支承の一部機能(固定,可動、回転)が損なわれている。	支承の機能が全消失している。					
49				変形・欠損	部材無し	損傷なし	支承の機能障害に至らない程度の変形、欠損がある。	支承の機能障害を伴う様な変形や欠損がある。					
50			アンカーボルト	腐食, 亀裂, ゆるみ・脱落, 破断など	部材無し	部材径に減少が見られない程度の 腐食が発生。	著しい腐食による膨張や破断、抜け出しがある。	―					
51			落橋防止システム	腐食、破断、変形、欠損、ひび割れ,剥離、鉄筋露出	部材無し	局部的に軽微な損傷がある。	著しい損傷がある。	―					
				種類	□鋼 □コンクリート □PC鋼材連結 □突起 □桁下鋼材突起 □ピン連結 □チェーン連結 □沓座拡幅								
52			モルタル	ひび割れ, 変形・欠損	部材無し	ひび割れ幅0.3mm以下	剥離、欠損が著しい。	―					
53	その他				部材無し	損傷なし	損傷あり	―					下部工背後の凹凸等

現地調査までに記入　　現地で記入

点検項目								
県市町名	市町	路線名	市町道市長線	橋種	橋	点検日	yyyy/mm/dd
橋梁コード	1000	位置（起点側）	0	橋長(m)	50	点検者	三重　太郎
橋梁名	市町橋1	位置（終点側）		総径間数	3	点検径間番号	1
						上部工塗装面積	----

損傷程度評価に〇を付ける。
健全性、概算数量及び備考を記入。

現地点検時、塗装履歴が表示されているときは、その面積を記入

	点検項目			損傷状況	損傷程度の評価（該当する項目に〇を付けて下さい）点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号（複数記入可）	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K（健全性：Ⅰ）	B1（健全性：Ⅰ～Ⅱ）	B2（健全性：Ⅰ～Ⅱ）	A（健全性：Ⅰ～Ⅱ）				
1	橋面	路面		路面の凹凸	部材無し	凹凸20mm未満の損傷がある。損傷箇所が少ない。	凹凸20mm以上の損傷がある。損傷箇所が比較的多い。	凹凸30mm以上の損傷がある。損傷箇所や面積が多く広い。	車両等の通行に支障がある(凹凸40mm以上)損傷がある。	Ⅰ	箇所	箇所	なし（As）
2				舗装の異常	部材無し	舗装ひび割れ幅5mm以下である。密集度が低い。	舗装ひび割れ幅5mm以上で深さが床版に達している。発生箇所数や面積は少ない。	舗装ひび割れ幅10mm以上で舗装直下のコンクリートが土砂化している。発生箇所や面積が多い。	車両等の通行に於いて減速や迂回を必要とするような損傷がある。		m2 0.9	m2	ひびW6 L4000 5ヶ所
3		伸縮装置		遊間の異常	部材無し	各遊間に差はあるが必要程度の遊間は確保されている。	各遊間の間隔が極端に異なっている。直角方向にずれている。	装置の櫛の歯が完全に離れている。桁とパラペットあるいは桁同士が接触している。	遊間の異常な広がりや装置の座屈変形によるせり上がり等により、第三者に障害を及ぼす懸念がある。	Ⅱ	箇所	箇所	なし
4				路面の凹凸	部材無し	凹凸20mm未満の損傷がある。損傷箇所が少ない。	凹凸20mm以上の損傷がある。損傷箇所が比較的多い。	凹凸30mm以上の損傷がある。損傷箇所や面積が多く広い。	車両等の通行に支障がある(凹凸40mm以上)損傷がある。		箇所 4	箇所	A1　凹凸30
5				鋼製ジョイントの場合 腐食，亀裂，ゆるみ・脱落，破断など	部材無し	鋼材の表面に部分的な腐食がある。	鋼材表面全体に錆が発生している。　櫛の歯の一部に軽微な破断や欠損がある。	錆の発生が激しく板厚の減少がある。 櫛の歯に比較的大きな亀裂や破断がある。	櫛の歯の破断や欠損により、通行車両等に障害(パンク、転倒)を及ぼす懸念がある。		箇所	箇所	
6				変形・欠損、漏水など　（ゴム系）	部材無し	経年劣化がある。	部分的に軽度の変形・欠損、漏水などがある。	部材全体に劣化が進み比較的大きな変形や欠損がある。欠損箇所から橋面下への漏水が見られる。	部材に著しい変形や欠損が生じている。第三者の通行に支障がある。		箇所 0.6	箇所	A1　凹凸30上流シール材欠損、漏水 L600
7		高欄・防護柵・地覆・中央分離帯		腐食,変形・欠損など	部材無し	(鋼部材の場合)錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満。部材等の変形、欠損はない。(コンクリート部材の場合)部材等の変形、欠損、鉄筋の露出はない。	(鋼部材の場合)錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はないが錆びの面積は50%以上。部材等の変形、欠損はあるが軽微である。(コンクリート部材の場合)部材等の変形、欠損、鉄筋の露出はあるが軽微である。	(鋼部材の場合)錆による板厚の減少や断面欠損があるが、錆びの面積は50%未満。部材の一部が局部的に著しく変形し一部が欠損している。支柱下地覆が欠損し支柱が浮いている。(コンクリート部材の場合)部材の一部が局部的に著しく変形し一部が欠損している。	(鋼部材の場合)車両の衝突による変形や腐食による断面欠損があり、錆びの面積が50%以上である。損傷により逸脱防止構造(支柱や梁)の機能が失われ車両や通行人に支障がある。(コンクリート部材の場合)損傷により逸脱防止構造(支柱や梁)の機能が失われ車両や通行人に支障がある。	Ⅱ	m 16	m	高欄 上流 錆、下流 腐食 地覆 なし
8		排水施設桝、管		腐食,変形・欠損など	部材無し	軽微な腐食はあるが、変形、欠損はない。	部材が局所的に変形している。排水管全体が腐食している。	部材全体が著しく腐食して部分的に欠損している。桝の一部に変形や欠損がある。	排水管の腐食が著しく部材が欠損し、機能不全を生じている。排水桝が消失し空隙が生じ第三者の通行に支障がある。	Ⅱ	箇所 4	箇所	排水管欠損4ヶ所
9		その他付属物		腐食,変形・欠損など	部材無し	軽微な腐食はあるが、変形、欠損はない。	部材が局部的に変形し、一部が著しく欠損している。	部材が全体的に著しく変形したり、欠損している。	橋上施設部材の変形や異常により第三者の通行に支障がある。	Ⅱ	箇所 1	箇所	照明 A1下流側 基部腐食

現地調査までに記入　　現地で記入

点検項目	県市町名	市町	路線名	市町道市町線	橋種	橋	点検日	yyyy/mm/dd
	橋梁コード	1000	位置(起点側)	0	橋長(m)	50	点検者	三重　太郎
	橋梁名	市町橋1	位置(終点側)		総径間数	3	点検径間番号	1
							上部工塗装面積	-----

	点検項目			損傷状況	損傷程度の評価(該当する項目に○を付けて下さい)点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号(複数記入可)	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K (健全性:Ⅰ)	B1 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	B2 (健全性:(Ⅰ～Ⅲ)	A (健全性:Ⅱ～Ⅳ)				
10	上部工	鋼	主桁	腐食・防食機能の劣化	部材無し	皮膜に変色はない。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満である。	皮膜が一部劣化している。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はない。(錆び面積50%以上) 板厚減少を伴わない局部的な膨張がある。	皮膜が劣化し点錆が発生している。 錆の発生により部材(支点、支間中央付近以外)に著しい膨張が生じ板厚の減少が見られる。	皮膜の劣化範囲が広くし点錆が発生している。 耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる板厚の減少が(支点、支間中央付近など)ある。		m2	m2	
11				亀裂・破断	部材無し	損傷なし		溶接接合部や鋼材の塗装表面に線状の亀裂があり、亀裂の長さや発生本数が比較的長く多い。 亀裂が鋼材内部に生じている可能性がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる大きな亀裂や破断が(支点付近)にある。	―	箇所	箇所	
12				ゆるみ・脱落	部材無し	損傷なし	一群の添接部所に於いて5%未満のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)		一群の添接部所に於いて5%以上のボ 行に を伴う材料				
13				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。		低下)すると思 や支間中央付 近など)ある。		箇所	箇所	
14			横桁・縦桁	腐食・防食機能の劣化	部材無し	皮膜に変色はない。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満である。	皮膜が一部劣化している。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はない。(錆び面積50%以上) 板厚減少を伴わない局部的な膨張がある。	皮膜が劣化し点錆が発生している。 錆の発生により部材(支点、支間中央付近以外)に著しい膨張が生じ板厚の減少が見られる。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる板厚の減少が(接合部、支間中央付近など)ある。		m2	m2	
15				亀裂・破断	部材無し	損傷なし	溶接接合部や鋼材の塗装表面に局部的な塗膜割れや亀裂やなどが見られる。 亀裂が線状でなく短く、数が少ない。	溶接接合部や鋼材の塗装表面に線状の亀裂があり、亀裂の長さや発生本数が比較的長く多い。 亀裂が鋼材内部に生じている可能性がある。	耐荷力に影響に影響(断面定数の低下)すると思われる大きな亀裂や破断が(接合部、支間中央付近など)ある。	―	箇所	箇所	
16				ゆるみ・脱落	部材無し	損傷なし	一群の添接部所に於いて5%未満のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常があり且つ一列一行に一本以上の異常がある。 B2の損傷状況且つ遅れ破壊を伴う材料(F11T)を使用。		箇所	箇所	
17				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形(座屈等)や欠損がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損がある。		箇所	箇所	
18			床版	腐食・防食機能の劣化	部材無し	皮膜に変色はない。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満である。	皮膜が一部劣化している。 錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はない。(錆び面積50%以上) 板厚減少を伴わない局部的な膨張がある。	皮膜が劣化し点錆が発生している。 錆の発生により部材(支点、支間中央付近以外)に著しい膨張が生じ板厚の減少が見られる。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる板厚の減少が(接合部、支間中央付近など)ある。		m2	m2	
19				亀裂・破断	部材無し	損傷なし	溶接接合部や鋼材の塗装表面に局部的な塗膜割れや亀裂などが見られる。 亀裂が線状でなく短く、数が少ない。	溶接接合部や鋼材の塗装表面に線状の亀裂がある。 亀裂の長さや発生本数が比較的長く多い。亀裂が鋼材内部に生じている可能性がある。	耐荷力に影響に影響(断面定数の低下)すると思われる大きな亀裂や破断がある。	―	箇所	箇所	
20				ゆるみ・脱落	部材無し	損傷なし	一群の添接部所に於いて5%未満のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常がある。 (使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常があり且つ一列一行に一本以上の異常がある。 B2の損傷状況且つ遅れ破壊を伴う材料(F11T)を使用。		箇所	箇所	
21				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形(座屈等)や欠損がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損がある。		箇所	箇所	

サンプルは、コンクリート上部工のため「部材無し」に○を付ける。

部材に対する点検項目で、損傷程度の評価が全て「部材無し」となる

現地調査までに記入　　現地で記入

点検項目									
	県市町名	市町	路線名	市町道市町線	橋種	橋	点検日	yyyy/mm/dd
	橋梁コード	1000	位置（起点側）	0	橋長(m)	50	点検者	三重　太郎
	橋梁名	市町橋1	位置（終点側）		総径間数	3	点検径間番号	1
							上部工塗装面積	-----

	点検項目			損傷状況	損傷程度の評価（該当する項目に〇を付けて下さい）点検項目中の（ ）内は健全性評価目安である					写真番号（複数記入可）	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K （健全性：Ⅰ）	B1（健全性：Ⅰ～Ⅱ）	B2 （健全性：(Ⅰ～Ⅲ）	A （健全性：Ⅱ～Ⅳ）				
22	上部工	コンクリート	主桁	RC桁のひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅03mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.3mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。 せん断ひび(支点付近に斜め45°)が発生している。	Ⅱ	m2	m2	なし
23				PC桁のひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.1mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.2mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。		m2	m2	
24				剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋の一部(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく、わずかに断面の減少が見られる。	主たる鉄筋のほとんどが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。		m2 1.8	m2	G1 うき 300×3000 G3 鉄露 300×3000
25				漏水・遊離石灰	部材無し	損傷なし	ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	ひび割れから著しい漏水や遊離石灰、僅かな錆汁が発生している。 (単なる水滴や表面の伝い水によ	内部鉄筋の腐食を表すような多くの漏水や錆汁が発生している。		m2 0.3	m2	G2 遊離 L1000
26				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形がある。 欠損が著しい。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損が(支点、支間中央付近など)ある。		箇所	箇所	なし
27			横桁・縦桁	RC桁のひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅03mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.3mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。 せん断ひび(支点付近に斜め45°)が発生している。	Ⅰ	m2	m2	なし
28				PC桁のひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.1mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.2mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。		m2	m2	
29				剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく断面の減少が見られる。	主たる鉄筋のほとんどが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。		m2	m2	なし
30				漏水・遊離石灰	部材無し	損傷なし	ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	ひび割れから著しい漏水や遊離石灰、僅かな錆汁が発生している。 (単なる水滴や表面の伝い水によ	内部鉄筋の腐食を表すような多くの漏水や錆汁が発生している。		m2	m2	なし
31				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	変形がある。 または欠損がある。	著しい変形がある。 または欠損が著しい。	耐荷力に影響すると思われる変形や欠損がある。		箇所	箇所	なし
32			床版 (張出部含む)	剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく僅かに断面の減少が見られる。	主たる鉄筋のほとんどが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。	Ⅱ	m2 0.3	m2	上流張出 鉄露 300×500 2ヶ所
33				漏水・遊離石灰,うき,変色・劣化	部材無し	損傷なし	コンクリートの劣化がある。ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	コンクリートの劣化が激しい。ひび割れから著しい漏水や遊離石灰,, 錆汁が生じている。 (単なる水滴や表面の伝い水による遊離石灰は除く)	漏水等の風化作用によりコンクリートや鉄筋の劣化が進み材料強度低下が考えられ耐荷力に影響を与えている。		m2	m2	なし
34				抜け落ち	部材無し	損傷なし	―	―	コンクリートの抜け落ちがある。		m2	m2	なし
35				床版ひび割れ	部材無し	性状、主として一方向のみに発生。　ひび割れ幅0.1mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	性状、格子状直前の状況に発生。 ひび割れ幅0.2mm未満 ,ひび割れ間隔0.5m程度	性状、格子状に発生。 ひび割れ幅0.2mm以上が連続 ひび割れ間隔0.2m以下の格子状	床版の疲労による劣化が加速期に達して、構造が等方性版から異方性へと変化し、耐荷力に影響すると思われる。		m2 9	m2	ひび 0.1 多数
36				定着部の異常	部材無し	軽微なひび割れがある。	PC鋼材の定着部より錆汁が認められる。または定着部に損傷が認められる。	PC鋼材の定着部のコンクリートが剥離している。または定着部に著しい損傷がある。	定着具やアンカープレートに大きな変形が見られる。		箇所	箇所	
37				漏水・滞水	部材無し	損傷なし	伸縮装置からの漏水や排水装置からの漏水による伝い水がある。	―	―		箇所	箇所	なし

現地調査までに記入　　現地で記入

点検項目									
	県市町名	市町	路線名	市町道市町線	橋種	橋	点検日	yyyy/mm/dd
	橋梁コード	1000	位置（起点側）	0	橋長(m)	50	点検者	三重　太郎
	橋梁名	市町橋1	位置（終点側）		総径間数	3	点検径間番号	1
							上部工塗装面積	----

	点検項目			損傷状況	損傷程度の評価（該当する項目に〇を付けて下さい）点検項目中の（ ）内は健全性評価目安である					写真番号（複数記入可）	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K（健全性：Ⅰ）	B1（健全性：Ⅰ～Ⅱ）	B2（健全性：(Ⅰ～Ⅲ）	A（健全性：Ⅱ～Ⅳ）				
38	下部工	鋼	橋脚躯体	腐食・防食機能の劣化	部材無し	皮膜に変色が生じ、錆の発生があるが部分的である。	皮膜が剥離し全体に錆の発生がある。板厚減少を伴わない局部的な膨張がある。	錆の発生により部材に著しい膨張が生じ板厚の減少が見られる。	耐荷力に影響に影響(断面定数の低下)すると思われる板厚の減少がある。		m2	m2	
39				亀裂・破断	部材無し	損傷なし	溶接接合部や鋼材の塗装表面に局部的な塗膜割れや亀裂やなどが見られる。亀裂が線状でなく短く、数が少ない。	溶接接合部や鋼材の塗装表面に線状の亀裂がある。亀裂の長さや発生本数が比較的長く多い。亀裂が鋼材内部に生じている可能性がある。	耐荷力に影響に影響(断面定数の低下)すると思われる大きな亀裂や破断がある。		箇所	箇所	
40				ゆるみ・脱落	部材無し	損傷なし	一群の添接部所に於いて5%未満のボルトに異常がある。(使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常がある。(使用材料は問わない)	一群の添接部所に於いて5%以上のボルトに異常があり且つ一列一行に一本以上の異常がある。B2の損傷状況且つ遅れ破壊を伴う材料(F11T)を使用。	—	箇所	箇所	
41				変形・欠損	部材無し	当て傷等軽微な損傷がある。	局部的な変形や欠損がある。	著しい変形(座屈等)や欠損がある。	耐荷力に影響(断面定数の低下)すると思われる変形や欠損がある。		箇所	箇所	
42		コンクリート	橋台躯体・橋脚躯体	ひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅03mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.3mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。 主桁が落橋する様な大きな割れがある。	Ⅱ	m2 1.2	m2	0.4㎜、0.4m
43				剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく断面の減少が見られる。	主たる鉄筋の全てが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。		m2	m2	
44				漏水・遊離石灰	部材無し	損傷なし	ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	ひび割れから著しい漏水や遊離石灰、僅かな錆汁が発生している。(単なる水滴や表面の伝い水による遊離石灰は除く)	内部鉄筋の腐食を表すような多くの錆汁が発生している。発生箇所が広範囲で耐荷力に影響すると思われる鉄筋の断面減少が予想される。		m2	m2	
45		基礎		沈下,移動,傾斜	部材無し	損傷なし	沈下、移動や傾斜の疑いがある。	明らかな沈下、移動、傾斜現象が見られる。	落橋の恐れがある。	Ⅲ	cm 1	cm	橋梁傾斜 詳細調査
46				洗掘	部材無し	損傷なし	軽微な洗掘がある。	比較的大きな(深く、長く、広い)洗掘現象が見られる。	落橋の恐れがある。		箇所 1	箇所	橋脚基礎 上流洗堀 2000×500 L=1000

	点検項目			損傷状況	損傷程度の評価（該当する項目に〇を付けて下さい）点検項目中の（ ）内は健全性評価目安である					写真番号（複数記入可）	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K（健全性：Ⅰ）	B1（健全性：Ⅰ～Ⅱ）	B2（健全性：(Ⅰ～Ⅲ）					
47	その他	支承	本体	腐食，亀裂，ゆるみ・脱落，破断など	部材無し	板厚減少が見られない程度の腐食　　が発生。	鋼材表面に著しい膨張が発生。	腐食により崩壊、消失をきたし路面に段差が生じ通行車両に支障。		Ⅱ	m2	m2	腐食 A1G1-G3
48				支承の機能障害	部材無し	損傷なしor損傷軽微	支承の一部機能(固定,可動、回転)が損なわれている。	支承の機能が全消失している。			箇所	箇所	なし
49				変形・欠損	部材無し	損傷なし	支承の機能障害に至らない程度の変形、欠損がある。	支承の機能障害を伴う様な変形や欠損がある。			箇所	箇所	なし
50			アンカーボルト	腐食，亀裂，ゆるみ・脱落，破断など	部材無し	部材径に減少が見られない程度の　　腐食が発生。	著しい腐食による膨張や破断、抜け出しがある。	—			箇所	箇所	確認不能
51			落橋防止システム	腐食、破断、変形、欠損、ひび割れ,剥離、鉄筋露出	部材無し	局部的に軽微な損傷がある。	著しい損傷がある。	—		Ⅰ	箇所	箇所	なし
				種類	□鋼　□コンクリート　□PC鋼材連結　□突起　□桁下鋼材突起　□ピン連結　□チェーン連結✓　□沓座拡幅								
52			モルタル	ひび割れ，変形・欠損	部材無し	ひび割れ幅0.3mm以下	剥離、欠損が著しい。	—		—	箇所	箇所	
53		その他			部材無し	損傷なし	損傷あり	—			箇所	箇所	A1 背面段差 h50 添架 なし

ボックスカルバート用チェックシート

点検項目	県市町名		路線名		橋種		点検日	
	橋梁コード		位置(起点側)		橋長(m)		点検者	
	橋梁名		位置(終点側)		総径間数		点検径間番号	
							上部工塗装面積	

点検項目			損傷状況	損傷程度の評価(該当する項目に○を付けて下さい)点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号(複数記入可)	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
				該当部材無し	O.K (健全性:Ⅰ)	B1 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	B2 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	A (健全性:Ⅰ～Ⅱ)				
1	橋面	路面	路面の凹凸	部材無し	凹凸20mm未満の損傷がある。 損傷箇所が少ない。	凹凸20mm以上の損傷がある。 損傷箇所が比較的多い。	凹凸30mm以上の損傷がある。 損傷箇所や面積が多く広い。	車両等の通行に支障がある(凹凸40mm以上)損傷がある。				供用性を評価
2			舗装の異常	部材無し	舗装ひび割れ幅5mm以下である。 密集度が低い。	舗装ひび割れ幅5mm以上で深さが床版に達している。発生箇所数や面積は少ない。	舗装ひび割れ幅10mm以上で舗装直下のコンクリートが土砂化している。 発生箇所や面積が多い。	車両等の通行に於いて減速や迂回を必要とするような損傷がある。				
7		高欄・防護柵・地覆・中央分離帯	腐食,変形・欠損など	部材無し	(鋼部材の場合)錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はなく、錆びの面積は50%未満。 部材等の変形、欠損はない。 (コンクリート部材の場合) 部材等の変形、欠損、鉄筋の露出はない。	(鋼部材の場合)錆は表面錆で板厚の減少や断面欠損はないが、錆びの面積は50%以上。 部材等の変形、欠損はあるが軽微である。 (コンクリート部材の場合) 部材等の変形、欠損、鉄筋の露出はあるが軽微である。	(鋼部材の場合)錆による板厚の減少や断面欠損があるが、錆びの面積は50%未満。 部材の一部が局部的に著しく変形し一部が欠損している。 支柱下地覆が欠損し支柱が浮いている。 (コンクリート部材の場合) 部材の一部が局部的に著しく変形し一部が欠損している。	(鋼部材の場合)車両の衝突による変形や腐食による断面欠損があり、錆びの面積が50%以上である。 損傷により逸脱防止構造(支柱や梁)の機能が失われ車両や通行人に支障がある。 (コンクリート部材の場合) 損傷により逸脱防止構造(支柱や梁)の機能が失われ車両や通行人に支障がある。				供用性を評価

点検項目				損傷状況	損傷程度の評価(該当する項目に○を付けて下さい)点検項目中の( )内は健全性評価目安である					写真番号(複数記入可)	損傷数量 損傷度B	損傷数量 損傷度A	備考
					該当部材無し	O.K (健全性:Ⅰ)	B1 (健全性:Ⅰ～Ⅱ)	B2 (健全性:(Ⅰ～Ⅲ)	A (健全性:Ⅱ～Ⅳ)				
32	上部工	コンクリート	主桁(頂版)	剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく僅かに断面の減少が見られる。	主たる鉄筋のほとんどが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。				耐荷性に直接影響する
33				漏水・遊離石灰,うき,変色・劣化	部材無し	損傷なし	コンクリートの劣化がある。ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	コンクリートの劣化が激しい。ひび割れから著しい漏水や遊離石灰,, 錆汁が生じている。 (単なる水滴や表面の伝い水による遊離石灰は除く)	漏水等の風化作用によりコンクリートや鉄筋の劣化が進み材料強度低下が考えられ耐荷力に影響を与えている。				
34				抜け落ち	部材無し	損傷なし	―	―	コンクリートの抜け落ちがある。				
35				床版ひび割れ	部材無し	性状、主として一方向のみに発生。 ひび割れ幅0.1mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	性状、格子状直前の状況に発生。 ひび割れ幅0.2mm未満 ,ひび割れ間隔0.5m程度	性状、格子状に発生。 ひび割れ幅0.2mm以上が連続 ひび割れ間隔0.2m以下の格子状	床版の疲労による劣化が加速期に達して、構造が等方性版から異方性へと変化し、耐荷力に影響すると思われる。				
36				定着部の異常	部材無し	軽微なひび割れがある。	PC鋼材の定着部より錆汁が認められる。または定着部に損傷が認められる。	PC鋼材の定着部のコンクリートが剥離している。または定着部に著しい損傷がある。	定着具やアンカープレートに大きな変形が見られる。				
37				漏水・滞水	部材無し	損傷なし	―	―	伸縮や排水装置等からの漏水がある。 支承付近に漏水による滞水がある。				

42	下部工	コンクリート	橋台（側壁・底版）	ひび割れ	部材無し	ひび割れ幅0.2mm未満 ひび割れ間隔1.0m以上	ひび割れ幅03mm未満 ひび割れ間隔0.5m程度	ひび割れ幅0.3mm以上 ひび割れ間隔0.5m未満	耐荷力に影響すると思われるひび割れがある。 主桁が落橋する様な大きな割れがある。				
43				剥離・鉄筋露出	部材無し	局部的な剥離が見られ鉄筋の露出があるが錆の発生は少ない。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出しているが腐食は軽微である。	主たる鉄筋(主筋、スターラップ)が露出し腐食が著しく断面の減少が見られる。	主たる鉄筋の全てが露出し腐食が著しく、耐荷力に影響すると思われる断面減少が見られる。				
44				漏水・遊離石灰	部材無し	損傷なし	ひび割れから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんどみられない。	ひび割れから著しい漏水や遊離石灰、僅かな錆汁が発生している。 (単なる水滴や漏水等による遊離石灰は除く)	内部鉄筋の腐食を表すような多くの錆汁が発生している。 発生箇所が広範囲で耐荷力に影響すると思われる鉄筋の断面減少が予想される。				
45		基礎		沈下,移動,傾斜	部材無し	損傷なし	沈下、移動や傾斜の疑いがある。	明らかな沈下、移動、傾斜現象が見られる。	落橋の恐れがある。				
46				洗掘	部材無し	損傷なし	軽微な洗掘がある。	比較的大きな(深く、長く、広い)洗掘現象が見られる。	落橋の恐れがある。				
53	その他				部材無し	損傷なし	損傷あり	―					上下流(起終点)部護岸のずれ等

チェックシート（損傷図）

点検項目	管理事務所		路線名		橋種		点検日	
	橋梁コード				橋長(m)		点検者	
	橋梁名				総径間数		点検径間番号	

備考および概略図

※その他損傷に対する記述，損傷スケッチ図，該当する写真番号を必要に応じて記入してください。※径間番号は、路線起点側を1番とする。但し、河川に架設されている橋梁は、上流側から見て左岸を1番とする。

凡 例	
ひび割れ	
遊離石灰	
剥 離	
漏 水	
鉄筋露出	
豆板・空洞	
その他	

点検結果の整理

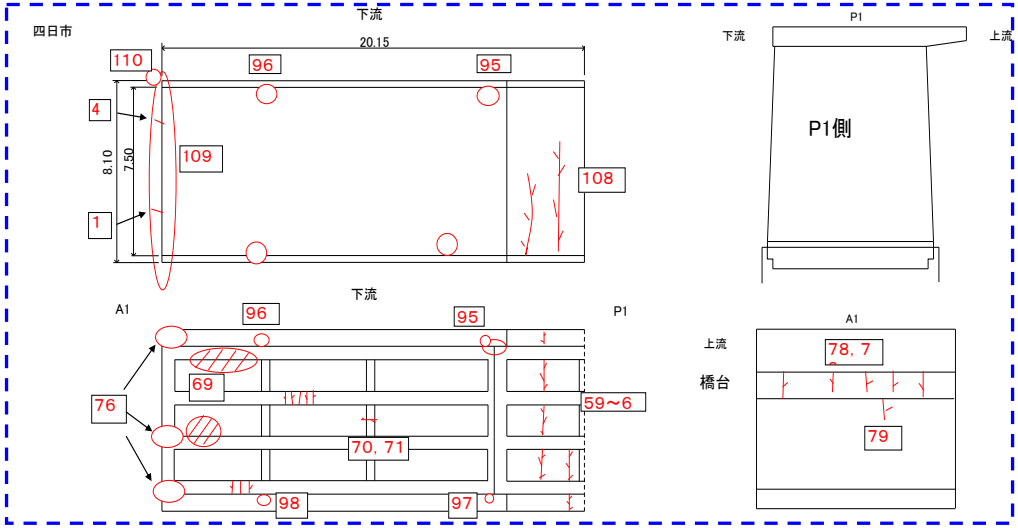
	損傷度の最悪値を記入（悪い順：A，B2，B1，OK）	損傷の総合評価（部材単位） コメント	備 考
路面			
伸縮装置			
高欄・防護柵			
排水施設			
その他付属物			
主桁			
横桁・縦桁			
床版			
下部工躯体			
基礎			
支承			

チェックシート（損傷図）

点検項目	管理事務所		路線名	○○○線	橋種	本線橋	点検日	2010/2/1
	橋梁コード	○○○○			橋長(m)	100	点検者	三重　太郎
	橋梁名	○○橋			総径間数	12	点検径間番号	1

備考および概略図

※その他損傷に対する記述，損傷スケッチ図，該当する写真番号を必要に応じて記入してください。※径間番号は、路線起点側を1番とする。但し、河川に架設されている橋梁は、上流側から見て左岸を1番とする。



スケッチ図を描き、損傷箇所を明記する

凡　例	
ひび割れ	
遊離石灰	
剥　離	
漏　水	
鉄筋露出	
豆板・空洞	
その他	

点検結果の整理

点検結果を記

損傷度の最悪値を記入（悪い順：A, B2, B1, OK）		損傷の総合評価（部材単位）コメント	備　考
路面	B1	舗装のひび割れが伸縮装置付近で発生している。	
伸縮装置	B2	一部欠損をしている。	
高欄・防護柵	OK		
排水施設	B1	排水管が欠損している。	
その他付属物	B1	照明灯が腐食している。	
主桁	OK	ひび割れ幅が0.15mm程度で、下面、側面に見られる。	
横桁・縦桁	OK		
床版	B1	端部に漏水、遊離石灰が見られる。	
下部工躯体	A	橋台パラペット部にひび割れがある。	
基礎	不明		
支承	B1	全体に腐食している。	

別紙2　様式1様式2　　様式1

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度		橋梁ID
				経度		
（フリガナ）						

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件（名称）

部材単位の診断（各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入）　　定期点検者

定期点検時に記録　　応急措置後に記録

部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等が分かるように記載）	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁						
	横桁						
	床版						
下部構造							
支承部							
その他							

道路橋毎の健全性の診断（判定区分Ⅰ～Ⅳ）

定期点検時に記録

（判定区分）	（所見等）

全景写真（起点側、終点側を記載すること）

架設年次	橋長	幅員

橋梁形式

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造（　　）【判定区分：　　】	上部構造（　　）【判定区分：　　】
支承部【判定区分：　　】	下部構造【判定区分：　　】